

排水用



キーロンDL

排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管（汚水・雑排水・通気用配管材）

- 国土交通省
公共建築工事標準仕様書適合品
- 日本水道钢管协会規格品
(WSP 042)



豊かな未来につなげます—ライフライン

キヨーセイ

防食で社会に貢献するキーロンパイプ

建築物の高層化と長寿命化に対応した配管材が求められる中で、当社が防食鋼管の技術を生かし開発した排水用キーロンDLは、着実な実績で信頼を重ねてきました。

汚水、雑排水、通気用配管材としてご利用ください。

日本水道钢管協会規格品 WSP 042 D-VA



はじめに

生活環境における変化は年々早くなっています。建築物の中高層化に伴う建築排水管も、次の様な品質が強く要望されてきました。

1. 耐食性にすぐれていること。
2. 耐火性にすぐれていること。
3. 耐震性にすぐれていること。
4. 軽量化されていること。
5. 施工性が容易で経済的であること。
6. 排水性にすぐれていること。

このような要請に対応するため当社では給水管として実績を積んだライニング技術を生かし、排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管「キーロンDL」を社会に送り出してきました。今後共、ご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

もくじ

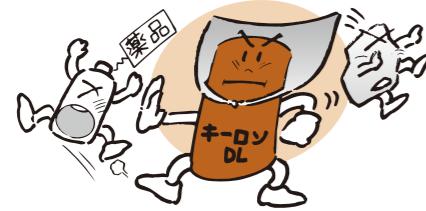
●特 長	3
●用 途	4
●規 格	4
●品質・試験	5
●施工法	6
●設計参考資料	7~8
●管端防食の標準施工法	9
●取扱上の注意事項	10

特長

鋼管内面に硬質ポリ塩化ビニル管をライニングした製品で、強度と耐食性をかねそなえた軽量で信頼性の高い排水用ライニング钢管です。

1 耐食性

内面は硬質ポリ塩化ビニル管を使用しておりますので、耐食性と耐薬品性にすぐれています。



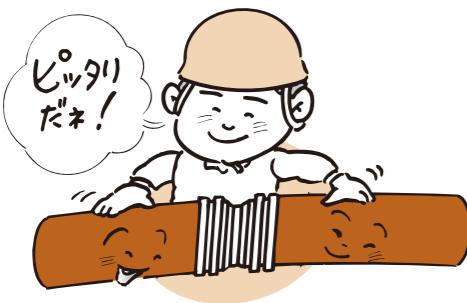
2 耐火性

防火区画の貫通も钢管同様に使用できます。(消防予 344号)



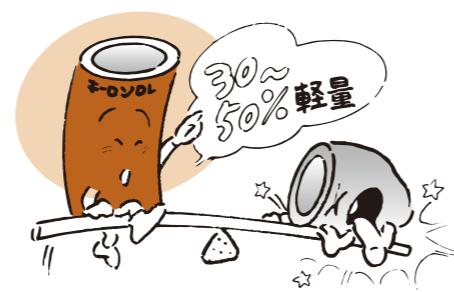
3 耐震性

配管用炭素鋼钢管 (JIS G 3452) と同一外径であり市販の可とう継手がそのまま使えます。



4 軽量化

従来の钢管や鉄管に比べ、30~50%軽量のため持ち運びが容易で、作業性にすぐれています。



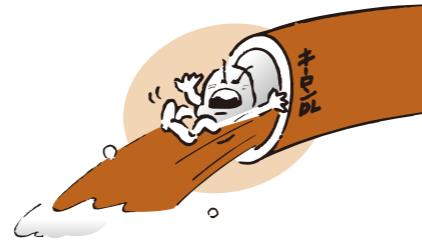
5 施工性

従来の钢管や鉄管の排水用管材と比べ、作業性、施工性などにすぐれているので経済的です。



6 排水性

内面の硬質ポリ塩化ビニル管は平滑で排水中の汚物などが付着しにくく、常時安定した流れが確保できます。



用途

軽量で耐食性にすぐれ、しかも内面が硬質ポリ塩化ビニル管ですから平滑でサビ、コブの発生や、汚物の付着による流水性能の低下がほとんどありません。又、外面が钢管のため、外部からの荷重・外力に対して強く建築設備の污水・雑排水・通気用配管材として使用できます。

建築設備用污水管 建築設備用通気管
建築設備用雑排水管 建築設備用雨水排水管等

規格

配管用炭素鋼钢管 (JIS G 3452) と同じ外径をもつ薄肉钢管の内面に硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K 6741相当品) をライニングした製品で、その規格は図-1、表-1に示す通りです。

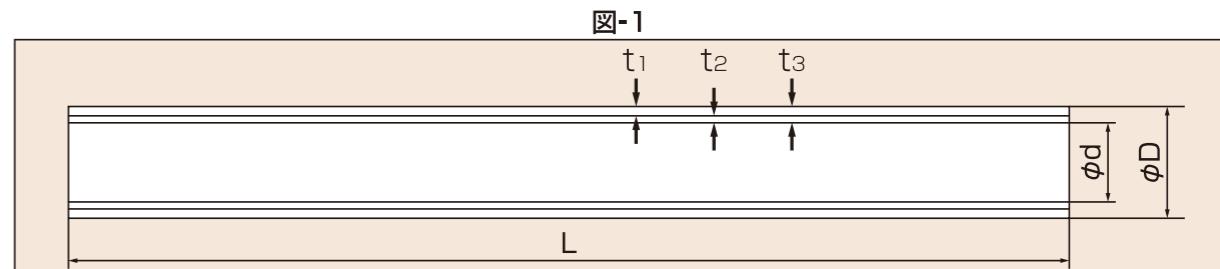
表-1 管の規格

単位:mm

呼び径(A)	外 径 ϕD	鋼 管		内面被覆部		長さ L	参 考		
		厚さ t ₁	*許容差	厚さ t ₂	許容差		平均厚さ t ₃	近似内径 ϕd	重量 (kg/m)
40	48.6±0.5	2.0	-0.3	1.5	±0.2	5500	3.5	41.6	2.59
50	60.5±0.6	2.0		1.5			3.5	53.5	3.25
65	76.3±0.8	2.3		1.5			3.8	68.7	4.67
80	89.1±0.9	2.3		2.0	±0.3	5500	4.3	80.5	5.66
100	114.3±1.1	2.8		2.0			4.8	104.7	8.65
125	139.8±1.4	2.8		2.0			4.8	130.2	10.64
150	165.2±1.7	3.2		2.5	5500	5500	5.7	153.8	14.53
200	216.3±2.0	3.8	-0.4	2.5			6.3	203.7	22.23

注 ※1 プラス側の許容差は規定しない。

※2 100A・125A×5.8mは受注生産品になっております。



表示例

長さ 5500mm タイプ

KYOSEI キーロン DL D-VA 40A 20-05

↑ 製造業者名

↑ 商品名

↑ 種類の記号

↑ 叫び径

↑ 製造年月

長さ 5800mm タイプ

KYOSEI キーロン DL D-VA 100A×5.8M 20-05

↑ 製造業者名

↑ 商品名

↑ 種類の記号

↑ 叫び径

↑ 長さ

↑ 製造年月

品質・試験

表-2 管の品質規格

項目	性能	試験温度
キーロンDL	外観及び形状 管端は管軸に対し、直角かつ内面はなめらかであること	——
	接着着力 0.2 MPa以上	常温
	へん平 管外径の2/3の高さになるまで圧縮させ、きず・割れを生じないこと	常温
硬質ポリ塩化ビニル管	引張降伏強さ 45 MPa以上(23°C)	23±2°C
	へん平 管外径の1/2で割れ及びひびがないこと	23±2°C
	耐薬品性 (蒸留水又はイオン交換水 10% 塩化ナトリウム 30% 硫酸 40% 硝酸 40% 水酸化ナトリウム)	質量変化度は、±0.2 mg/cm ² 以下
	ビカット軟化温度 76°C以上	——

※品質規格の性能は、WSP 042に準拠する。

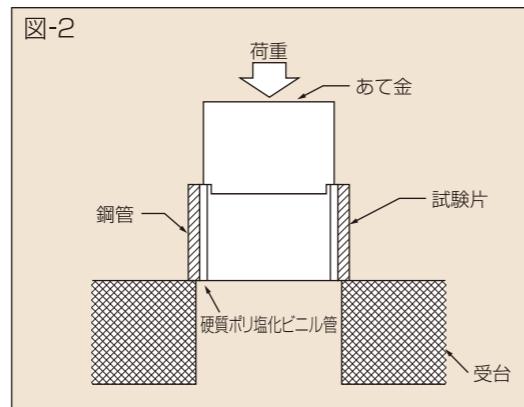
接着力試験

試験方法

図-2のように試験片を受台に水平に置き、硬質ポリ塩化ビニル管部にあて金をあて、徐々に荷重を加えて、接着面が剥離したときの荷重から次式により算出します。

$$F = W/S$$

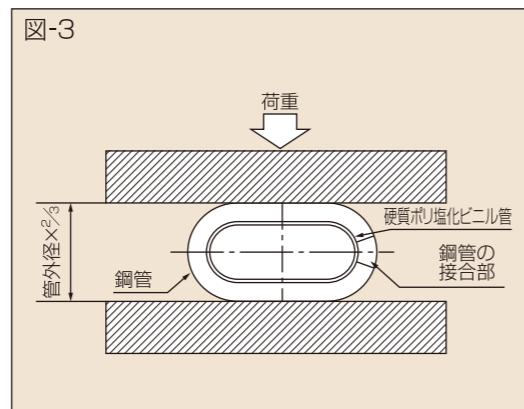
F : 接着力 MPa
 W : 剥離荷重 N
 S : 接着面積 mm²
 $S = 3.14 \times d \times l$
 d : 鋼管内径 mm
 l : 試験片長さ mm



へん平試験

試験方法

図-3のように試験片を2枚の平板の間にはさんで、外径が元の寸法の2/3になるまで圧縮します。



施工法

施工法は、従来の鋼管とほぼ同じですが、内面に硬質ポリ塩化ビニル管をライニングしているため鋼管の標準施工法の中で一部使用できないもの（ねじ加工・高温を伴う加工・拡径加工等）がありますのでご注意願います。

切断加工

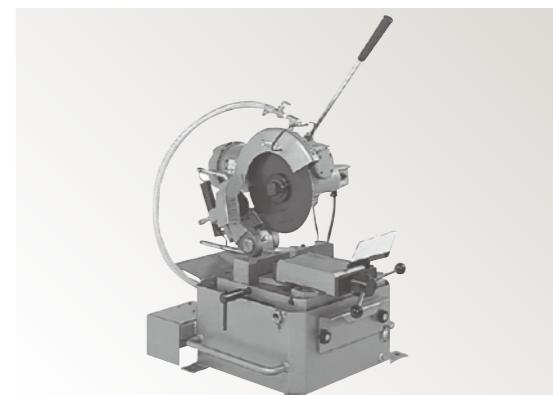
切断には、バンドソー、メタルソーが使用できます。
なお、ガス切断、アーク切断、高速砥石及びパイプカッターは使用しないでください。



バンドソー

バンドソー

このタイプは歯がエンドレスのため、切断面は管軸に対し直角に、かつ硬質ポリ塩化ビニル管を傷つけることなくスピーディーに切断できますので、キーロンDLに非常に適しています。



メタルソー

メタルソー

のこ刃を回転させながら切断するので、鋼管のバリや硬質ポリ塩化ビニル管の割れがありません。



スクレーパ



スクレーパによる面取り

設計参考資料

1 支持工法

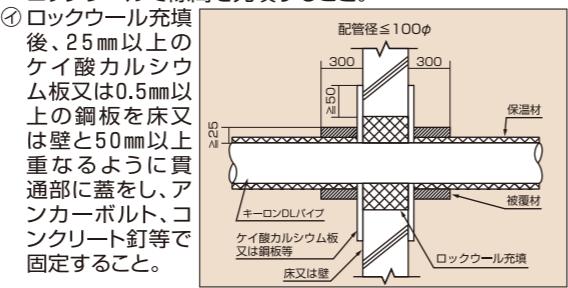
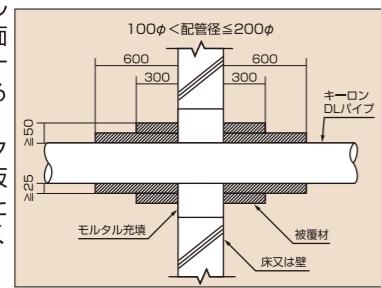
鋼管の厚さが一般鋼管に比べて薄いため、可とう継手の使用の際の支持間隔や、支持箇所は下記に準じて行なってください。

項目		支持間隔及び支持箇所							
横走配管	最大支持間隔		呼び径(A) 40 50 65 80 100 125 150 200 支持間隔(m) 1.8 2.7 3.6 4.5						
	継手部の支持		継手1ヶに1ヶ所支持してください 継手間隔が1m以下の場合は中間を1ヶ所支持する						
縦配管	パイプシャフト内の支持		各階ごとに1箇所以上固定支持をしてください						
	スラブ貫通の支持		スラブ貫通の縦管は、スラブ位置で固定支持してください						

2 防火区画貫通部の処理

①セメントモルタルによる方法
②ロックウールによる方法

③人造鉱物繊維保温材(JIS A 9504)に規定するロックウール保温材(充填密度150kg/m³以上のものに限る。)又はロックウール繊維(充填密度150kg/m³以上のものに限る。)を利用した乾式吹き付けロックウール又は湿式吹き付けロックウールで隙間を充填すること。



④セメントモルタル硬化後は、仮押さえに用いた板等を取り除くこと。

3 強度計算用資料

呼び径(A)	外装钢管			キーロンDL		(参考)管体重量 kg/m		
	外径mm	内径mm	管壁断面積cm ²	断面2次モーメントcm ⁴	管孔断面積cm ²	重量kg/m	配管用炭素鋼管 JIS G 3452	排水用鉄管 JIS G 5525 2種
40	48.6	44.6	2.92	8.11	13.41	2.59	3.89	—
50	60.5	56.5	3.68	16.03	22.47	3.25	5.31	7.2
65	76.3	71.7	5.35	37.32	37.05	4.67	7.47	9.1
80	89.1	84.5	6.27	60.20	50.87	5.66	8.79	10.4
100	114.3	108.7	9.81	155.35	86.05	8.65	12.2	13.7
125	139.8	134.2	12.05	288.11	133.07	10.64	15.0	16.8
150	165.2	158.8	16.29	544.00	185.69	14.53	19.8	20.2
200	216.3	208.7	29.94	1679.76	321.26	25.79	30.1	35.1

4 材料の物性

性質		単位	硬質ポリ塩化ビニル管	钢管
機械的性質	比吸水率	mg/cm ²	1.43 0.04~0.06	7.87
	引張降伏強さ	MPa	49~56	36.3(3,700)
	伸び率	%	50~150	30以上
	曲げ強さ	MPa	88	—
	圧縮強さ	MPa	59~88	36.3(3,700)
	剪断強さ	MPa	54	28.4~37.3(2,900~3,800)
	縦弾性係数	MPa	3×10 ³	2.1×10 ⁵
	ボアソン比	—	0.37	0.28~0.35
熱的性質	線膨張係数	°C ⁻¹	7×10 ⁻⁵	—
	比熱伝導率	J/kg·k(cal/°C·g) w/m·k(Kcal/°C·m·h)	0.8×10 ³ ~1.3×10 ³ (0.2~0.3) 0.14~0.16(0.12~0.14)	0.46×10 ³ (0.11) 45(39)
	ビカット軟化点	°C	76以上	—
	燃焼性	—	自己消火性	不燃性

5 耐薬品性

内面に被覆している硬質ポリ塩化ビニル管の耐薬品性は、下表の通りです。

酸		アルカリ		塩基	
薬品名	温度°C	薬品名	温度°C	薬品名	温度°C
	20 40		20 40		20 40
塩酸 (35%)	○ △	水酸化ナトリウム (カセイソーダ)	○ ○	重クロム酸カリウム	○ ○
硫酸 (60%)	○ ○	水酸化カリウム (カセイカリ)	○ ○	過マンガン酸カリウム (25%)	○ ○
硝酸 (98%)	○ △	アンモニア水 (40%)	○ ○	硫酸ナトリウム	○ ○
硝酸 (70%)	○ ○	石灰乳	○ ○	過酸化水素水 (30%)	○ ○
硝酸 (95%)	✗	水酸化カルシウム (消石灰)	○ ○	過塩素酸カリウム (1%)	○ ○
クロム酸 (10%)	○ ○	ガス	有機薬品	大概の金属塩化物	○ ○
クロム酸 (50%)	△ ×	薬品名	温度°C	硝酸塩硫酸塩	○ ○
磷酸 (30%)	○ ○		20 40		
次亜塩素酸 (10%)	○ ○	塩素ガス乾性 (100%)	△ ×		
塩素水	○ ○	塩素ガス湿性 (5%)	△ ×		
シアノ酸	○ ○	アンモニア	○ ○		
酢酸 (95%未満)	○ ○	亜硫酸ガス乾性	○ ○		
酢酸 (95%以上)	○ ×	亜硫酸ガス湿性	○ ○		
ベンゼンスルホン酸	✗ ✗	炭酸ガス (100%)	○ ○		
蟻酸 (50%)	○ ○	硫化水素 (100%)	○ ○		
蟻酸 (100%)	○ ○	天然ガス	○ ○		
蔴酸	○ ○	石炭ガス	○ ○		
アセトシン (100%)	✗	その他	性質	漂白剤	○ ○
メチルアルコール (100%)	○ ○	各種メッキ液	○ ○	写真現像液	○ ○
エチルアルコール	○ ○	塩水	○ ○	木材防腐剤 (クレオソート)	○ ○
アニリン	✗	ガソリン	△ △		
ベンゼン	✗ ✗	石油	△ △		
乳酸	○ ○	グリセリン	○ ○		
酪酸 (20%)	○				
クロール酢酸	○ ○				
オレイン酸 (100%)	○ ○				
マレイイン酸 (44%)	○ ○				
ピクリン酸	✗ ✗				
ホルマリン	○ ○				
エチレンクロライド	✗				
フェノール (6%)	○ △				
二硫化炭素	✗ ✗				
混酸 H ₂ SO ₄ : CrO ₃ (20% : 25%)	○ ○				
アセトアルデヒド	✗				
ガソリン	△ △				
H ₂ SO ₄ : HNO ₃ (50% : 50%)	○ ×				
グリセリン	○ ○				

○侵されない ○大体侵されないとみてよい

△やや侵されるが使用可能 ×使用不可

管端防食の標準施工法

排水鋼管用可とう継手

可とう継手は、日本金属継手協会規格品(JPF MDJ 002)をご使用ください。

MD 継手の施工方法

作業手順	作業内容	図																											
管の切断	●バンドソーなどを用いて直角になるよう切断してください。	—																											
面取り及び 切断面仕上げ	●内面の硬質ポリ塩化 ビニル管は、糸面取り を行なってください。 ●切断面のバリ等は、 取り除いてください。																												
標線の記入	●防錆剤の塗布代と 継手受口の差し込み代 を記入して下さい。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径(A)</th> <th>差し込み代S(mm)</th> <th>防錆剤塗布代A(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>40</td><td>43</td><td>14</td></tr> <tr><td>50</td><td>48</td><td>15</td></tr> <tr><td>65</td><td>54</td><td>18</td></tr> <tr><td>80</td><td>59</td><td>20</td></tr> <tr><td>100</td><td>64</td><td>22</td></tr> <tr><td>125</td><td>75</td><td>24</td></tr> <tr><td>150</td><td>80</td><td>27</td></tr> <tr><td>200</td><td>92</td><td>33</td></tr> </tbody> </table> <p>※差し込み代Sは参考値です。 使用する継手メーカーに確認して下さい。</p>	呼び径(A)	差し込み代S(mm)	防錆剤塗布代A(mm)	40	43	14	50	48	15	65	54	18	80	59	20	100	64	22	125	75	24	150	80	27	200	92	33
呼び径(A)	差し込み代S(mm)	防錆剤塗布代A(mm)																											
40	43	14																											
50	48	15																											
65	54	18																											
80	59	20																											
100	64	22																											
125	75	24																											
150	80	27																											
200	92	33																											
部品のセット	●管に図の順序①～② にセットして下さい。																												

作業手順	作業内容	図
防錆剤の塗布	●管端部にはエポキシ樹脂塗料(JIS K 5551: 2008)の2種に規定する耐塩水噴霧試験に適合した防錆塗料を塗布してください。	
ボルトの締付け	●管の先端を継手本体に挿入し、ボルトを締め付けてください。	

取扱上の注意事項

1 使用排水温度

排水温度は60°C以下で使用できます。
ただし連続的に高温になるような使い方は避け
てください。



2 火気厳禁

火に近づけないでください。加熱されると硬質
ポリ塩化ビニル管が炭化したりシワ、発泡現象が
起り、内部が
つまることがあります。



3 現場および輸送上の注意

配管工事中、あるいは輸送中などにより異常なシ
ヨックを与えた時は、内部の状態をよく確かめて
から使用してください。



4 管端変形

管端部分が万一変形した場合、この部分を切断、
除去して使ってください。



5 使用できない薬品

有機系薬品(ケトン類、二硫化炭素、四塩化炭素
など)は膨潤現象をおこすので使用しないでく
ださい。



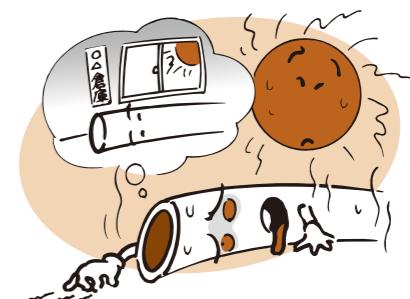
6 塗装

下塗り一次防錆しか施していませんので、中塗り、
上塗りをしてください。



7 保管上の注意

炎天下や厳冬の場所に放置せず、置場には台木を敷き、
必ず室内保管してください。やむをえず屋外保管する
場合は、台木の上に置きシートを掛け直射日光と雨水
を避けるとともに、熱気がこもらないように風通しの
よい状態に保ってください。



-
- このカタログに記載された技術情報（品質試験結果）は、製品の代表的な特性や性能を説明するためのものであり、「規格」及び「用途」の規定事項として明記したもの以外は、保証を意味するものではありません。
 - ご使用に当たっては、このカタログに記載されている用途、注意事項及び作業手順と留意点を必ず守ってください。
不適切な使用等によって生じた損害につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
-



株式会社 協成

大阪本社 〒550-0023 大阪府大阪市西区千代崎3丁目1番3号 TEL.06(6583) 6100 FAX.06(6583) 6105
東京本社 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町2丁目14番5号 TEL.03(5642) 2302 FAX.03(5642) 2308
KDX浜町中ノ橋ビル6F

<https://www.kyosei.com/>

北海道営業所 TEL.011(811) 8038 京都営業所 TEL.075(681) 8201
東北営業所 TEL.022(782) 6560 大阪支店 TEL.06(6684) 9100
北関東営業所 TEL.028(681) 5025 岡山営業所 TEL.086(805) 6511
新潟営業所 TEL.025(272) 2438 広島営業所 TEL.082(270) 1125
神奈川営業所 TEL.0467(79) 5461 四国営業所 TEL.089(973) 5052
名古屋支店 TEL.052(659) 6201 福岡支店 TEL.092(651) 9730
静岡出張所 TEL.054(344) 1777 北九州営業所 TEL.093(582) 1341
北陸営業所 TEL.076(253) 0811 南九州営業所 TEL.099(260) 5051

